

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	特定非営利活動法人 日本音楽集団
公演団体名	特定非営利活動法人 日本音楽集団

内容
<p>基本的にワークショップ（以下、WS）の実施内容に変更はありません。</p> <p>全ての実施校で「楽器（お箏）体験」を実施し、その際には後述の感染拡大防止策を取りますが、「合唱での共演」については下記のように実施校毎に要望が異なるため、それぞれの要望に沿って可能な限り柔軟に対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 通常通りの内容でWSを実施し、本公演での共演も行いたい。・ WSで「合唱の練習」は行いたい、本公演での共演は差し控えたい。・ WSでの「合唱の練習」自体を差し控え、本公演は鑑賞のみにしたい。・ 申請校と共同開催校の2校の児童生徒を対象に「楽器体験」と「合唱の練習」を行い、本公演では2校の児童生徒で共演したい。・ 「楽器体験」は4～6年生を対象に実施し、「合唱の練習」は全校児童生徒を対象に行つて、本公演では全校児童生徒で共演したい。 <p>いずれの学校においても、私共法人ではWSの実施にあたっては下記の「新型コロナウイルス感染症拡大予防策」をとります。</p> <p>【コロナ対応策】</p> <ol style="list-style-type: none">① 事業の実施に立っては、下記の物を私共法人で持ち込み、感染症拡大予防に努めます。 － 手指消毒用アルコール、非接触型体温計（法人所有）、フェイスシールド、ゴム手袋、除菌ウエットティッシュ② WSの「楽器（お箏）体験」・「合唱の練習」それぞれで、学校側と「会場の換気」・「児童生徒の間隔」につき協議しながら、各実施学校で「可能な限り懸念の無い条件」を確保して実施するよう努めます。③ 「楽器（お箏）体験」を行う児童生徒には、全員手指をアルコールで消毒したうえで「箏爪（ことづめ）」を着用してもらいます。④ 「合唱の練習」を行う学校では、児童生徒には全員マスクを着用して歌の練習を行ってもらいます。⑤ WSで指導に当たる演奏家は、全員「マスク・フェイスシールド・ゴム手袋」を着用します。⑥ 全ての実施校で「楽器（お箏）体験」が終了したら、児童生徒が使用した「箏爪」を除菌ウエットティッシュで消毒し、次の実施校での楽器体験に備えます。

タイムスケジュール（標準）
事業の実施日が6時間授業の場合 1校時目／楽器類の搬入、体験楽器の配置と調絃 2～5校時目／楽器体験（※） 6校時目／共演のための練習 （※）楽器体験は、最大で4コマ・4クラスを対象に実施します。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
尺八奏者1名、三味線奏者1名、二十絃奏者1名、十七絃奏者1名、打楽器奏者1名 以上、日本音楽集団所属の演奏者5名 歌指導の協力俳優 1名、 楽器運搬スタッフ 1名 <u>計7名を派遣</u> します。
【コロナ対応策】 ① 法人所有の非接触型体温計で事業実施日の朝全員の体温をチェックします。 ② 本法人に所属する演奏家はもちろんのこと、協力俳優と楽器運搬の委託スタッフを含めた全員に、事業実施の2週間前から「体温・行動記録表」（本法人のフォーマット）をつけてもらい、各自で保管してもらいます。 同記録表の提出は義務付けておりませんが、必要な時には提出できるよう保管を指示しています。

学校における事前指導
共演を予定なさっている学校では、事前に送ってある「練習用CDR」を参考に歌の事前練習を行って頂きます。 又、事前にお送りしている教職員用の事前資料《さくらリレー》紹介DVDをご覧頂き、ワークショップで実施する <u>箏体験での児童生徒の皆さんの距離感を具体的に把握</u> して頂いた上で、ワークショップ会場の選択をして頂きます。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	特定非営利活動法人 日本音楽集団
公演団体名	特定非営利活動法人 日本音楽集団

演目
<p>(1) 『宮崎駿アニメ・メドレー』（秋岸寛久編曲／七重奏） 「風の谷のナウシカ」 ～ 「君をのせて」（天空の城ラピュタより） ～ 「もののけ姫」 ～ 「いつも何度でも」（千と千尋の神隠しより）、以上4曲のメドレー作品 『日本の楽器たち』（古典作品）</p> <p>(2) 「六段の調」（箏独奏） (3) 「鹿の遠音」（尺八独奏） (4) 「春の海」（尺八・箏二重奏） (5) 「那須の与一」（琵琶弾き語り・独奏） (6) 「幕間三重」・「獅子狂い五段」（三味線・笛・打楽器） (7) 『子どものための組曲』（篠田大介作曲／七重奏） ～休憩～</p> <p>(8) 『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽劇～【児童生徒代表と共演】 （作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫、作詞：佐藤万里） 公演時間（100分）</p> <p>【コロナ対応策】</p> <p>① 本公演を実施するにあたっては、学校側と「会場の換気」・「児童生徒の間隔」につき協議しながら、各実施学校で「可能な限り懸念の無い条件」を確保して実施するようにいたします。</p> <p>② 各実施校のご担当の先生と協議し、本公演の演奏中に演奏者が「フェイスシールド・マスク」を着用するか検討します。</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
<p>笛奏者1名、尺八奏者1名、三味線奏者1名、琵琶奏者1名、二十絃奏者1名、 十七絃奏者1名、打楽器奏者1名、 以上、日本音楽集団所属の演奏者7名 協力俳優1名、楽器運搬スタッフ1名 <u>計9名を派遣</u>します。</p> <p>【コロナ対応策】</p> <p>① 事業の実施に立って、下記の物を私共法人で持ち込み、感染症拡大予防に努めます。 — 手指消毒用アルコール、非接触型体温計（法人所有）、フェイスシールド</p> <p>② 持ち込みの非接触型体温計で事業実施日の朝全員の体温をチェックします。</p> <p>③ 本法人に所属する演奏家はもちろんのこと、協力俳優と楽器運搬の委託スタッフを含めた全員に、事業実施の2週間前から「体温・行動記録表」（本法人のフォーマット）</p>

をつけてもらい、各自で保管してもらいます。

同記録表の提出は義務付けておりませんが、必要な時には提出できるよう保管を指示しています。

タイムスケジュール（標準）

「合唱での共演」を行う場合

2校時目／楽器類の搬入、準備開始

3校時目／日本音楽集団の〈第1部〉音楽リハーサル

4校時目／〈第2部〉「ごんぎつね」の共演リハーサル

5・6校時目／本公演

実施校への協力依頼人員

（特に必要ありません）

演目解説

【第1部】

『宮崎駿アニメ・メドレー』（秋岸寛久編曲／七重奏）で幕を開け、児童生徒さんたちが良く知るメロディーで日ごろ耳に馴染みの少ない「日本の楽器の音色」に触れてもらい、まずは児童生徒の皆さんが《それぞれ自分達なりに感じ取ってもらう》よう意図しています。

続く『日本の楽器たち』（古典作品）では、個々の楽器の歴史を通じて「独自な世界」を作り上げてきたそれぞれの楽器を一つ一つ司会者（協力俳優）と演奏者のお話を交えながら紹介していきます。

「個々の楽器の歴史」や「古典作品」の紹介だけでなく、司会者とのやりとりの中で各演奏家が「伝統楽器と出会った契機」や自らが「プロの演奏家を目指した動機」等も紹介し、個々の演奏家が持つ「音楽家としての個人史」に触れてもらうことも盛り込んでいます。

第1部の最後には、本法人所属の作曲家篠田大介が「日本音楽集団からの子ども達へのメッセージ」として作曲した『子どものための組曲』を演奏し、「独自な世界」を持つ日本の楽器が合奏を行うようになった「現代の響・姿」を紹介し、第1部を通じて日本の楽器の現在に至るまでの「歴史と歩み」に触れてもらい、第2部の共演プログラムへとつなげます。

【第2部】

メインプログラムの『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽劇～（作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫、作詞：佐藤万里）で各校の児童生徒代表の皆さんと共演し、それを全校児童生徒の皆さんに鑑賞して頂きます。

児童生徒代表の皆さん達が、国語の授業で学習した『ごんぎつね』が題材となった作品で「演奏家と一緒に音楽朗読劇を作り上げる経験」をし、併せて本公演での発表を通じて演奏家と共に「達成感を共有する」ことを目指しています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

児童生徒代表の皆さんは、「ワークショップ」で『楽器（お箏）体験』を行い、「本公演」で「ごんぎつね」（作詞：佐藤万里、作曲：川崎絵都夫）の中に登場する3曲の「ごんのうた」を合唱して日本音楽集団と『共演』します。

私共法人では、この「自ら体験した楽器と共演する」ことにポイントを置いています。

ワークショップで『楽器（お箏）体験』という「直接体験」を持った児童生徒代表の皆さんは、それを踏まえて『共演』することで、より多くの「一体感や達成感を演奏者と共有」できることを目指しております。又これと併せ、児童生徒代表の皆さんが「直接体験」を踏まえた能動的な関心を持って鑑賞してくれることも期待しており、「演奏を観察する」域に至るような「より本公演の鑑賞効果を高める」ことを意図しています。

児童生徒とのふれあい

【コロナ対応】

これまでは、私共法人では「給食交流」を推奨して実施して参りましたが、今年度の事業では「給食交流」を実施できません。

児童生徒代表のお友達の教室に日本音楽集団のメンバーが分散して加わり、WSや共演の感想を話し合いながら給食を頂くことを通じ、『音楽の場を離れたところでも日本音楽集団メンバーと児童生徒代表のお友達とがコミュニケーションを深める場』としての「給食交流」を実施できないことは、巡回公演事業が持つ「意義ある一面」を果たせないことであり、NPO法人としても非常に残念です。